

31 脊髄損傷者の退院後の生活

～日常生活で困難に感じていること～

看護部 井草良子・富岡佳代・田村玉美・横田美恵子

【はじめに】当院には多くの脊髄損傷者が入院するが、看護の視点で脊髄損傷者の退院後の生活を把握する実態調査は行っていない。退院後の生活に即した看護を提供するためには生活の現状を把握する必要があると考え実態を調査した。

【目的】脊髄損傷者の退院後の生活に密着した看護を提供するために退院後の日常生活で困難に感じていることを明らかにする。

【対象者】平成15年4月1日～平成19年12月31日までに当院を退院した脊髄損傷者730名
方法：郵送による無記名記述式質問紙調査法

【調査期間】平成20年3月1日～3月15日、発送数：730名 回収数：266名(36.4%)
倫理的配慮：当院の倫理審査委員会の承認を受けた。

【結果】266名中「退院後の生活で困っている」と感じている145名に着眼した。困っていると答えた方の記述241を5つのカテゴリーに分類した。1. 永続的に日常生活の援助を必要とする将来への不安。ここでは介護負担に起因する生活の負担や介護に関する不安等があった。2. 生活状況を共有できない孤立感と情報を得ることの困難さ。ここでは困ったことを相談できる相手がいない生活に役立つ情報が入らないこと等であった。3. 身体・精神面の苦痛では、身体の苦痛に関する意見や、排便・排尿に関すること、性処理ができないことなどがあった。4. 経済・就労・医療への不安では、医療費がかかることや働くことの困難、在宅医療に関することであった。5. 生活を維持することの困難には、住宅の確保や改修ができない、実際に食事をする際の不便さがあった。

【考察】

1. 介護の負担感は、介護を受ける当事者、介護する家族双方にあることがわかった。他の研究でも脊髄損傷者にかかる時間は障害に正比例していたと報告されている。介護者は自分の時間を自由にもてない、お互いに気遣うことによる遠慮などが精神的な負担へとつながっていると考えられる。

2. 医療者の理解と対応が必要

どうすることもできない痛み、排泄や性についての悩み、医療者が障害を知らないことで診察が受けられるかなどの不安を抱えながら社会生活を送らなければならない状況であることを私達は理解し、その声を知らせていく役割があると考えます。

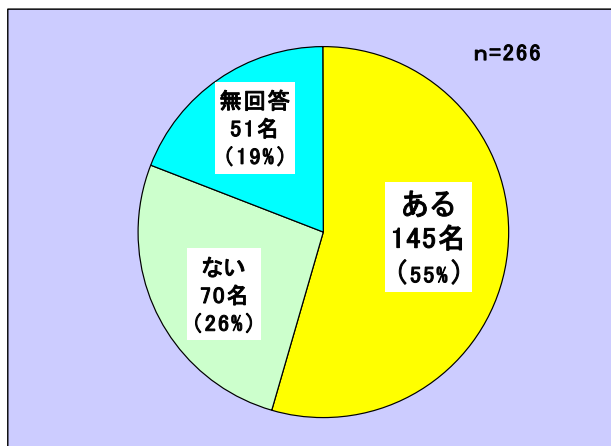
3. 情報提供や相談できる場が必要

相談相手がない、相談する手段がない等から相談窓口や多様な情報提供が必要と考える。

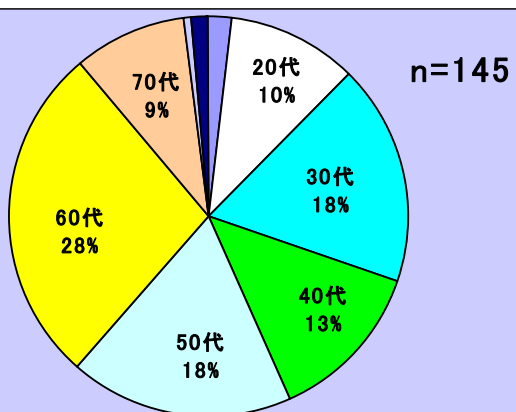
【結論】

今回の調査から退院後の生活で困っていることは、身体の苦痛、将来や孤独による不安、適切な医療を受けられるか不安、経済の不安、情報を得る手段がない、であることが明らかになった。

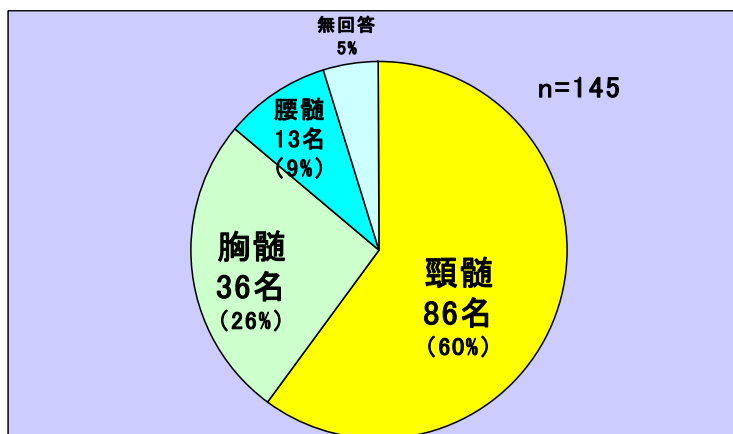
生活の中で困っていること



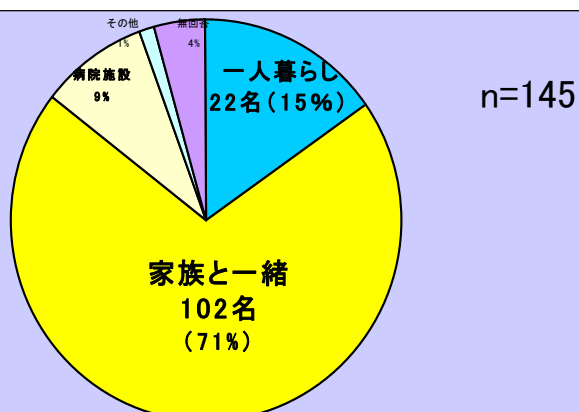
年齢構成



「困っていると答えた人」の損傷部位



生活形態



カテゴリー分類

1. 永続的に日常生活の援助を必要とする
将来への不安
2. 生活状況を共有できない孤立感と情報を
得ることの困難さ
3. 身体・精神面の苦痛
4. 経済・就労、医療への不安
5. 生活を維持することの困難

表 2. 脊髄損傷者が退院後の生活で困ったことの内容

カテゴリー	サブカテゴリー(19)	コード(51)
永続的に日常生活の援助を必要とする将来への不安	介護負担に起因する生活の不安(22)	1. 家族の介護ストレス 2. 家族に介護を受けることの負担 3. 生活全般に人の介護を受けなければならない
	外出を困難にする交通手段の確保(14)	1. 介護者の確保 2. 交通手段の確保 3. 一人で外出できない
	家族の病気・高齢化に伴う介護負担と先行きの不安(6)	1. 介護者の病気・高齢化
	日常生活が思い通りにならない(36)	1. 幼い子供 2 人の養育を一人でしている 2. 思うどおりにならないことが多い
	今後の生活の不安(10)	今後の生活に不安がある。
生活状況を共有できない孤立感と情報を得ることの困難さ	困ったことを相談する相手がなく、せいかつに役立つ情報が入らない(13)	1. 在宅生活に生かせる情報が入らない 2. 相談できる人や相談窓口がない
	人間関係の問題(4)	人間関係
身体・精神面の苦痛	身体的症状(58)	1. 原因がわからないめまいがある 2. 褥瘡 3. 身体機能が悪化してきた 4. 身体の痛み 5. 身体の痙性 6. 身体のこわばり 7. 身体のしびれ 8. 身体のむくみ 9. 体重管理が難しい 10. 体温調節ができない 11. 体調の変化 12. 昼夜関係なく行う体位変換
	性処理ができない事による精神的疲労(1)	セックスができない
	日常生活の困難さに起因する精神的疲労(2)	精神的に不安定
	排尿、排便の失禁の予防ができない(13)	1. 排尿コントロールができない 2. 排便コントロールができない
	プライバシーがない(3)	1. プライバシーがない 2. 他人の前で局部を露出することが辛い
経済・就労、医療への不安	在宅医療、社会保障制度、公共施設に関する問題(18)	1. 在宅医療に関する問題 2. 障害者用に公共施設が整備されていない 3. 適切なりハビリが受けられない 4. 福祉機器が充実していない 5. ヘルパーの利用できる時間の不足 6. 保険制度の変更により利用できない物がある
	就学の問題(1)	受け入れてくれる学校がない
	医療費がかかることによる経済の困難(7)	1. 医療費がかかる 2. 収入の減少
	就労・働くことの困難(9)	1. 仕事と通院の両立 2. 就職先が見つからない 3. 職場にある矛盾と無理解 4. 通勤ラッシュに巻き込まれる
	適切な治療を受けることができない(12)	1. 医療従事者が脊髄損傷者とを知らない 2. 受け入れる病院があるか不安 3. 国リハに通院したい
生活を維持することの困難	住宅状況に起因する生活の困難さ(9)	1. 住宅の確保・改修ができない 2. 住宅の洗濯が難しい
	食事(2)	1. 箸が介助箸で外食ができない 2. 食事の調理

